

原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第8集

くるま  
車 出 遺 跡

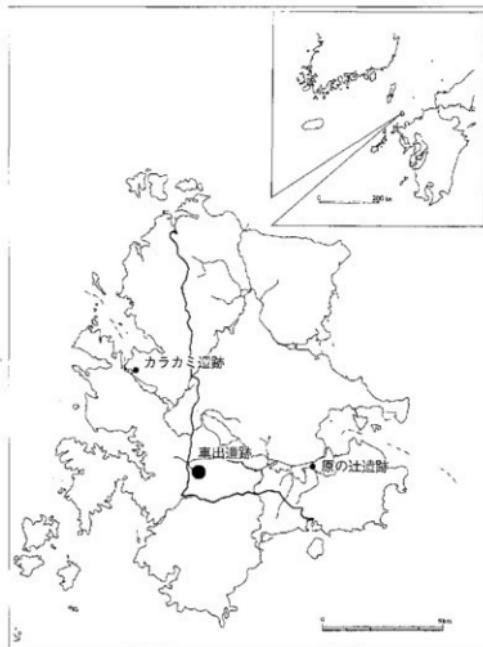
幡鉾川流域総合整備計画（圃場整備事業）  
に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書VII

1998

長崎県教育委員会  
郷ノ浦町教育委員会

原の辻遺跡調査事務所調査報告書 第8集

くるま  
車出遺跡



1998

長崎県教育委員会  
郷ノ浦町教育委員会



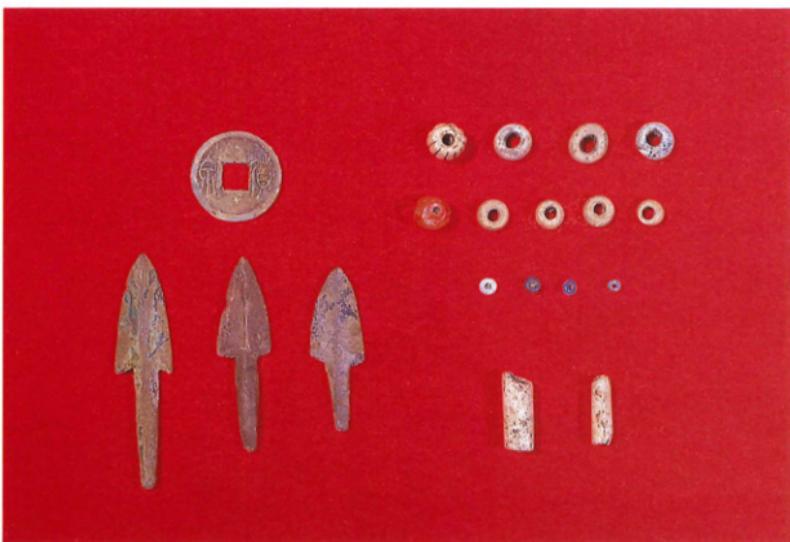
車出遺跡空中写真



車出遺跡遺物出土状況



車出遺跡出土銅鏡



車出遺跡出土遺物

## 発刊にあたって

本書は、幡鉢川流域総合整備計画に係る県営圃場整備工事に先立って実施した車出遺跡の発掘調査報告書です。

遺跡の立地する柳田地区は、鉢形山に鎮座する壱岐国一の宮の天手長男神社をとりまくように水田地帯が広がり、周辺には多くの遺跡が知られています。

今回の発掘調査は、神社南側の水田部について行いました。その結果、旧石器時代から弥生・古墳・中世の各時代にまたがる複合遺跡であることもわかり、この地が長い間にわたって利用されたことが明らかになりました。

この遺跡の主体は弥生時代であり、大量の遺物が出土しました。出土品は土器や石器の他に、中国製や日本製の銅鏡をはじめ、銅鏃や、中国の貨幣である貨泉などです。また、西側には環濠と思われる部分も確認され、まとまった集落の存在が考えられます。

壱岐の弥生時代の遺跡には、国の史跡に指定された大規模多重環濠集落の原の辻遺跡や、カラカミ遺跡が全国的に注目されていますが、車出遺跡は規模こそ大きくないものの、これらの遺跡と深いつながりがあったと考えられ、当時の一支国の一翼を担っていたことも想像されます。大陸文化の波をいち早く受けた壱岐には、すぐれた文化財が多くあります。今後はこれらの歴史的遺産にも光をあてて行くことが必要だと感じますとともに、発掘調査後の遺跡や遺物の活用も大切なことではないかと思われます。

本書が学術研究および郷土史研究の面で活用されることを念願して発刊のあいさつといたします。

平成10年3月31日

長崎県教育委員会教育長 中川 忠

## 例　　言

1. 本書は、長崎県壱岐郡郷ノ浦町田中触に所在する車出（くるまで）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 範囲確認調査は平成4年および5年度、郷ノ浦町教育委員会が主体となり国庫補助を受けて行った。
3. 本調査は、全体の8割を農林側費用負担として県教育委員会が平成10年1月19日～3月31日まで行い、2割分については郷ノ浦町教育委員会が国庫補助を受けて平成10年1月19日～2月26日までの日程で実施した。
4. 本書には県教育委員会が主体になった分と、郷ノ浦町教育委員会が主体となった分を合わせて掲載した。
5. 本書関係の写真撮影は安楽が行った。
6. 本書関係の遺物は、県関係分は原の辻遺跡調査事務所に、町関係分は郷ノ浦町教育委員会で保管の任にあたっている。
7. 本書の編集は安楽による。

## 本文目次

I	発掘調査に至る経緯	1
II	発掘調査の組織	1
III	遺跡の地理的歴史的環境	2
IV	調査の概要	4
1.	試掘調査の概要	4
2.	本調査の概要	5
3.	基本層位	7
V	遺構	10
VI	遺物	12
VII	まとめ	15

## 挿図目次

第1図	車出遺跡周辺地形図	3
第2図	試掘調査 sondage map	4
第3図	本調査区配図	6
第4図	土層実測図(1)	8
第5図	土層実測図(2)	9
第6図	B T 区溝造構配図	10
第7図	A T 区溝造構実測図	11
第8図	旧石器時代遺物実測図	12
第9図	青銅製品実測図	13

## 図 版 目 次

図版1	遺跡遠景およびCトレンチ近景	19
図版2	C T 1区およびE T区土層	20
図版3	B T 4区およびB T 6区土層	21
図版4	A T12区遺構およびB T 2・3区遺構出土状況	22
図版5	B T 2・3区遺物出土状況	23
図版6	B T 2区遺物出土状況	24
図版7	B T 2区遺物出土状況	25
図版8	B T 2区砾石および砾石をはずした土器出土状況	26
図版9	B T 2区土器滴り出土状況	27
図版10	青銅製品出土状況	28
図版11	B T 2区甕形土器および石器出土状況	29
図版12	溝状遺構上面遺物出土状況	30
図版13	溝状遺構下面遺物出土状況	31
図版14	B T 8区溝状遺構上面遺物出土状況	32
図版15	A T 4区遺物出土状況	33
図版16	E T区遺物出土状況	34
図版17	B T 2区貯藏穴出土状況および鹿角出土状況	35
図版18	調査風景	36

## I. 発掘調査に至る経緯

芦辺町・石田町・郷ノ浦町の3町を流れる幡ヶ川流域の水田約350haについて、基盤整備を目的とした県営幡ヶ川流域総合整備計画が、平成4年度から13年度の予定で始められた。この事業に係る埋蔵文化財包蔵地については、平成3年度から国庫補助事業によって範囲確認調査を実施し、本遺跡の調査も平成4年度郷ノ浦町教育委員会を調査主体として11月9日～11月26日の日程で実施した。この調査の結果、14箇所56m<sup>2</sup>の試掘場のうち12箇所から弥生時代から中世にかけての遺物包含層が確認された。

平成5年度はさらに東側と南西側の水田部を対象とし、2月14日～2月25日まで、試掘場を16箇所64m<sup>2</sup>設定し調査を行った。その結果、南西部斜面の試掘場から弥生土器を中心とする包含層が確認され、東側の低地からは弥生土器が良好な状況で包含されていることが確認された。

以上の調査結果を踏まえて、遺跡保存のための協議を関係機関とを行い、工事の設計変更について要望した。その結果、遺跡の大部分は水田の現地表面に盛り土をして保護することになったが、水路部分と道路敷の部分827m<sup>2</sup>については本調査を実施することになった。本調査は、調査区の2割を国庫補助事業として郷ノ浦町教育委員会が行い、8割を事業者負担として県教育委員会が実施した。

## II. 発掘調査の組織

### 1. 平成4年度範囲確認調査

調査主体	郷ノ浦町教育委員会	教育長	平 松 正
調査担当	長崎県教育庁文化課埋蔵文化財班	主任文化財保護主事	宮 崎 貴 夫
	同	文化財保護主事	本 田 秀 樹

### 2. 平成5年度範囲確認調査

調査主体	郷ノ浦町教育委員会	教育長	平 松 正
調査担当	長崎県教育庁文化課埋蔵文化財班	主任文化財保護主事	宮 崎 貴 夫
	同	文化財保護主事	山 下 英 明

### 3. 平成9年度本調査

#### 県関係

調査主体	県教育庁原の辻遺跡調査事務所	所長	田 川 肇
調査担当	同	課長	安 楽 勉

#### 町関係

調査主体	郷ノ浦町教育委員会	教育長	平 松 正
調査担当	同	社会教育係長	市 山 等
	同	むぎ郷土館学芸員	白 石 純 悟

### III 遺跡の地理的歴史的環境

#### (1) 地理的環境

壱岐島は、九州と朝鮮半島の間に位置する。東西約15km、南北17km、面積は約139km<sup>2</sup>である。九州本土との距離は、福岡から約67km、呼子から約26kmである。島の経済は福岡圏であるが、行政圏は長崎県に属する。郷ノ浦町、勝本町、芦辺町、石田町の4町で壱岐郡を成し、総人口35,089人（平成7年10月1日現在）である。

島の地形は、大半が玄武岩台地で、割合平坦である。最高峰は岳の辻といい213mである。分水嶺は西へ偏り、最長河川は幡ヶ谷川といい8,953mである。海岸線は西部はリアス式の海岸が発達しているのに対し、東部はなだらかで海岸砂丘が発達している。

郷ノ浦町は壱岐島の南西に位置する。面積は約47km<sup>2</sup>、総人口は13,098人（平成7年10月1日現在）である。昭和30年、町村合併促進法により、武生水町、渡良村、柳田村、沼津村、志原村、初山村の1町5村が合併し、うまれた町である。

車出遺跡は、壱岐島のやや南西、田中触に位置する。遺跡の北側に鉢形山がある。遺跡に西側に国道382号線が南北に走り、田中川が西流し、鉢形山の北西のふもとで河内川と合流する。遺跡本体は丘陵と水田部に拡がる。

#### (2) 歴史的環境

壱岐島はその位置から古くから九州本土と朝鮮半島・中国大陸との交流の歴史をもつ。文献に最初に登場するのは、3世紀の中国歴史書『魏志倭人伝』で、次のように記されている。「一支国に到着する。この海（壱岐・対馬間の海）は渤海と名づけられる。この国の大官もまた卑狗、次官を卑奴母離という。広さ三百里平方ばかり、竹木・農耕が多く、三三千ばかりの家がある。ここには田地があるが、水田を耕しみても耕してみても食料には足らず、やはり南や北と交易して暮らしている。」当時の壱岐島の状況を知る上で貴重な記述であると考えられている。

車出遺跡の北側に鉢形山があり、『延喜式神名帳』に記載の天手長男神社が鎮座する。ここは数々の歴史をもつ。古代は神功皇后の三韓征伐の伝説がある。平安時代は延久3年（1071）の銘が刻まれた鉢形山經塚の石造弥勒如来坐像がある。この仏像は像の底部に長方形に内割りが施され、経筒の代用として像自体を法華経の容器とした鞘仏であることが分かる。仏像の襷衣の襟首から背部には壱岐国司佐伯良孝のもとでこの像が造られ、埋経されたことが分かる。また台座から九品往生印を刻み、願主と結縁者が記されている。全国の經塚から多くの仏像が出土しているが、弥勒仏の確実な例は稀で、貴重な歴史資料である。

また鉢形山頂上には城があり、國司佐伯良孝の居城であったといわれる。

#### 参考文献

後藤正恒・古野尚盛『壱岐名勝図誌』文久元年（1861）

後藤正定『壱岐縣土史』壱岐民報社 大正7年（1918）

安藤孝一「壱岐出土石造弥勒如来坐像」『考古学ジャーナル』135号ニューサイエンス社 昭和52年（1977）



第1図 車出遺跡周辺地形図

## IV. 調査の概要

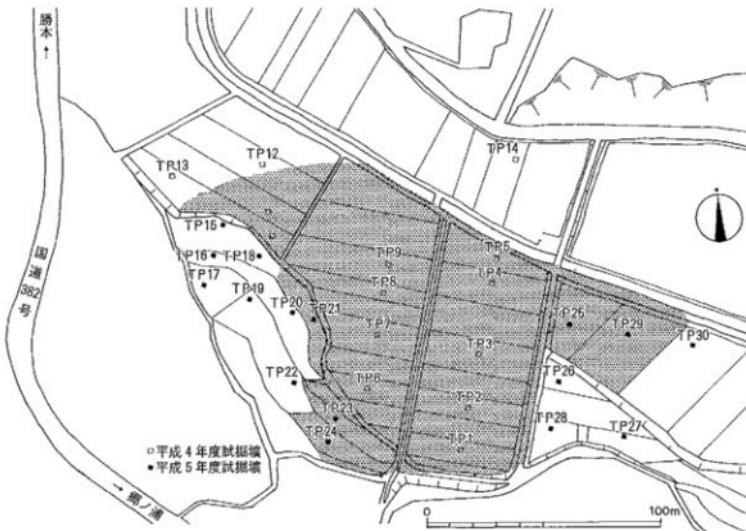
### 1. 試掘調査の概要

平成4年度の調査は11月9日～11月26日の期間で実施された。11,000m<sup>2</sup>の調査対象地に2m×2mの試掘場を14箇所設定した。その結果、12の試掘場から弥生時代から中世にかけての遺物包含層が確認され、TP4・5で中世と考えられる柱穴状の落ち込み、TP10では自然流路と小さな落ち込みの上に、弥生土器が投げ込まれたような状況で検出された。

中世と考えられる掘建柱建物については、天手長男神社と天手長比売神社とを結ぶ参道があり、石灯籠付近にお旅所があったと旧来から言われており、神社に関係する建物の所在が想定された。

この試掘調査で、遺跡の広がりは東側の水田部分と南西部の丘陵部にも広がる可能性が出てきたため、平成5年度の調査は平成6年2月14日～2月25日の日程で2m×2mの試掘場16箇所を設定し、南西部の丘陵に8箇所、東側の水田部に8箇所の64m<sup>2</sup>の面積である。

調査の結果TP26～28は地山まで削られ、TP25では多くの弥生土器が凹地状の湿地に一括で溜った良好な包含状況が確認された。土器は弥生後期後半頃の土器を主体としており、凹部や磨石などの石器や、鹿角、獸骨なども出土している。またTP29では地山粘土面上に不整形状の落ち込みが検出され、弥生土器が包含された状況で観察されている。



第2図 試掘調査場配置図

## 2. 本調査の概要

本調査は関係機関と協議の結果、設計変更できなかった遺跡範囲の中に含まれる道路と水路および橋架部分827m<sup>2</sup>について行った。その内訳は県関係分662m<sup>2</sup>、町関係分165m<sup>2</sup>である。

調査区は工事予定地を中心にしてA～Eに区分し、さらに必要に応じて小区分けを行った。県関係分はBからEトレンチを、町関係分はAトレンチを担当することとした。

Aトレンチは東西に160m余りで幅は1mである。試掘時のTP25は最も近い位置にあたり幅4mの範囲に弥生土器が、すき間もないようにつめ込まれた状態で出土した。この層は黒色の腐植土層で、土器の他に凹石やくど石と呼ばれる支脚形石器なども出土した。掘起柱遺構が確認された地点では数個の柱穴が確認されたが、1m幅の調査範囲では規模や性格まで把握することは不可能な状態であった。さらに西側のAT12区では溝が検出された。幅約1.2mで中には弥生後期の土器が投げ込まれた状態で出土した。底はU字形で深さ約50cm程が残り、上部は耕作面として削平されている。両側に行くに従って遺物の出土が希薄になる。溝の方向については、南側に約10m離れた地点に確認のトレンチを入れたところ、ほぼ溝に間違いないと思われる遺構を検出した。しかし、北方向については不明である。

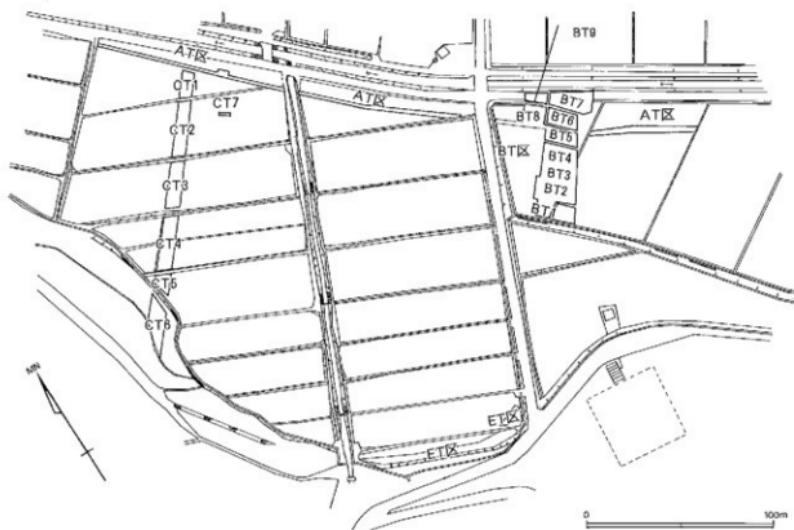
Bトレンチは南北に計画された道路、水路・橋架の予定地で、長さは30m、幅10mのまとまった区域である。調査区は細かく9区域に分けた。ここも試掘時のTP25に近接する区である。1から9区に細分された区の1区は一番南側であるが、すでに昭和30年代に行われた圃場整備のため、包含層は削平され、耕作土の下はすぐ砂岩質の地山となっている。2区から小河川に接する7区にかけてゆるやかに傾斜をもっているが、遺物が大量に出土したのは2・3区からである。ここは耕作土直下から遺物が出土し、しかも、両側は地山が不整形に掘り込まれ、中からは大量の土器類や獸骨、魚骨が出土した。また土器は完形土器も數個体に及び、割れてつぶれた状態のものも見られる。西側の土器溝りの中からは、完形土器が弥生後期後半の土器でほとんど丹塗磨研であることや、後漢鏡片が火にあたった状態で出土したことなどから、祭祀的性格も考えられよう。また東側にはやはり土器溝り状態の窪地があり、ここからは小形彷製鏡が一面完形で出土した。この鏡の周囲からはガラス小玉や瑪瑙玉、骨製ではないかと思われる管玉など十数点が出土した。ここには大形の甕がつぶれたようになっていたことから墓地の存在する可能性も考えられる。3区も全面に遺物が堆積しており、2・3区の青銅製品は鏡2面、銅鏡3本、貨泉1枚が出土しているが、いずれも保存状態は良好である。時期的には須恵IIの段階から後期終末が主流で、その後に河川の氾濫を受けたと思われる疊が浅く堆積し、古墳時代の須恵器などが散乱する。5区から7区にかけては疊層下面から断面U字形の溝遺構が見られ、上面には遺物が乗っている。この溝の中には黒色の腐植土層が堆積し、数個所に杭が残る。人工的なものか判断に迷うところもあるが、溝には遺物が集中しており区域を隔てる溝的な機能も考えられる。さらにすぐ西の8・9区では幅4m、深さ約25cm程の溝状遺構が検出された。砂疊層を掘り込み岩盤に達しているが、9区の中ほどの先端部は隅丸方形に納められて止まっている。この中から

は幅約20cm余りの柱状の角材をくりぬき、途中に切り込みを入れた木製品が出土した。この木製品は旧状は長いものと思われるが、全体で約90cm程しか残っていない。また同じ底面から弥生中期の丹塗り小形蓋付土器などが出土しており、この遺構の時期は弥生時代中期と考えられる。

Cトレンチは道路予定地で長さ65m、幅4mである。全体的に弥生土器は出土するが、まとまりに欠け小破片が多い。C T 5・6区では小破片ながら量的には多い。またC T 3区では良質の黒曜石製の細石核2点と細石刃が3点出土し、車出遺跡が旧石器時代までさかのぼることになった。しかし層位的には旧石器の層は確認できなかった。

Eトレンチは遺跡の一番高所に位置している水田部に設定した。長さ42m、幅1mである。ここからは1m下部の方から古墳時代の土器や弥生土器が出土した。人蹟などを含み、湧水などもあり調査は困難を極めたが、出土遺物は予想以上に多かった。

全体のトレンチからは、包含層としては認められないものの古墳時代の遺物と中世の遺物が出土する。中世の遺物は中国輸入陶磁器が目立つ程度である。この中世の遺物に関しては遺跡の南側に隣接し寺跡があったといわれ、宝篋印塔や五輪塔などの石塔類が集められていることで、その存在が裏付けられる。



第3図 本調査区配置図

### 3. 基本層位

#### (1) Aトレンチ

東側と西側では若干の違いを見せる。1層は表土層、2層は地山土が混じる埋め土が4区まで続き3層は灰褐色土層で昭和30年代以前の旧耕作土層、4層は灰褐色粘質土混疊層で礫がうすく堆積し、その間にねっとりとした粘質土が混じる。川の氾濫による堆積と考えられる。5層は褐色砂疊層で、砂利状の堆積を見る。遺物はほとんど含まれない。河床面と思われる。西側では3層に褐色粘質土が入る。5層は同じ褐色砂疊層でも拳大の礫を多く含み、鉄分質が強くなる。遺物は4層5層に若干含まれる程度である。

#### (2) Bトレンチ

1層から5層まではAトレンチと基本的に変わらない。ただ4層上面には中世と古墳時代の遺物それに弥生時代の遺物が混在して出土する。AT5区では4層から地山面を掘り込んだ形で溝状の遺構が現れる。1区では表土の下すぐには砂岩質の地山層、2・3区では耕作上のすぐ下に灰褐色粘質土、その下に礫がうすく堆積し、遺物が散乱している状況が見られる。また地山面を不整形に掘り込んだ跡からは多量の土器や石器、獸骨、魚骨が出土する。

#### (3) Cトレンチ

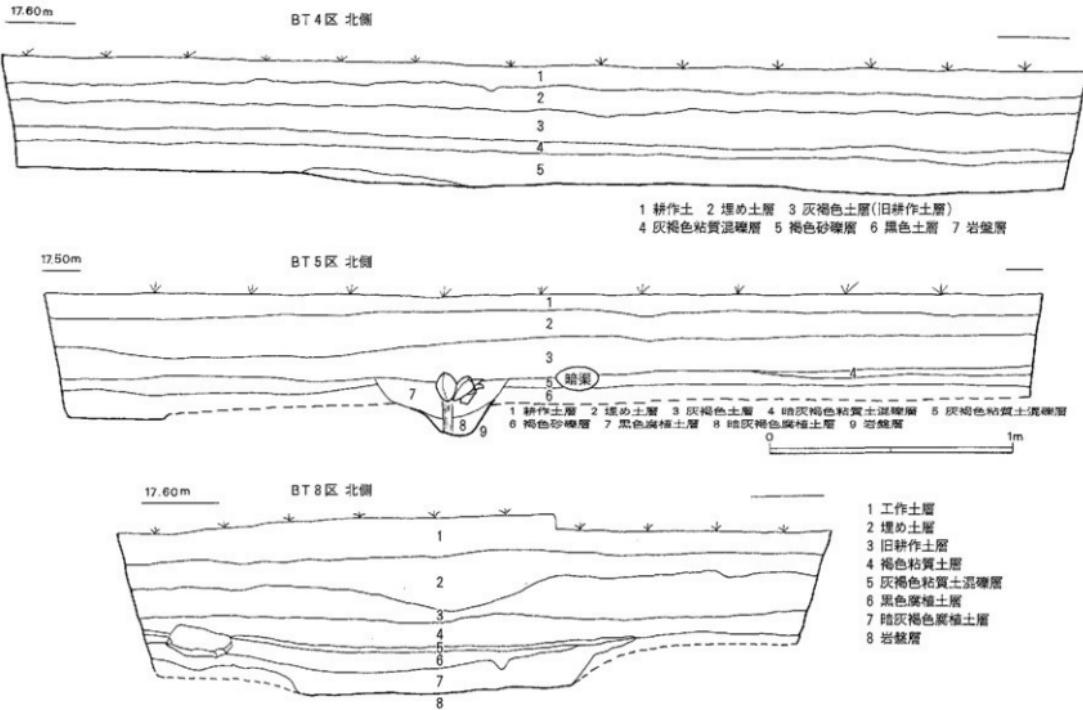
階段上になった水田を6区に分けた。1～2層は全体同じであるが、1区では3層に疊層、4層が灰褐色粘質土で遺物包含層、5層は灰褐色粘質土に砂利から拳大の疊層が見られ、やわらかいことから旧河道とも思われる。2、3区は3層に褐色の疊層が粘土層を混じて堆積し、遺物はこの上面から出土。旧石器も同層からの出土である。4区は旧来の水田2枚が1枚に整地された状況が観察される南に褐色粘土層が途切れ、北側に灰褐色土層が堆積する。この下層に灰褐色の粘質土に礫が混じった層があり弥生中期から後期の遺物が包含される。やや有機質も混じり旧河道とも思われる。最上段の6区は、3層によくしまった褐色土層があり弥生土器の小破片が包含されるが、2次堆積とも考えられる。4層の暗褐色粘質土は、やや大きな土器破片を含む。なお土層は南から北へ傾斜する。

#### (4) Dトレンチ

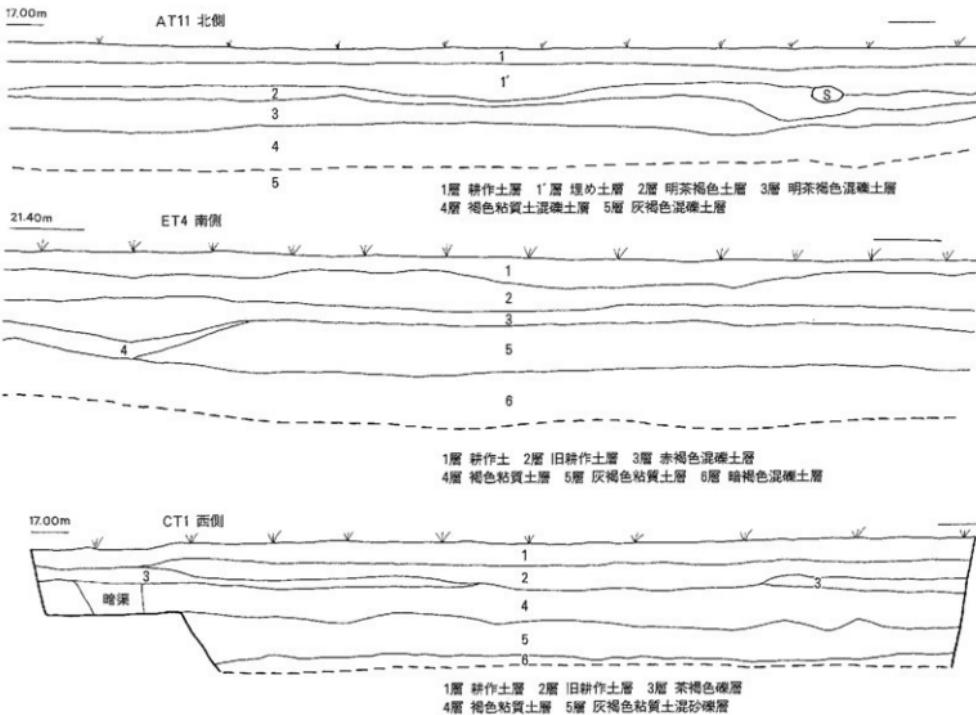
Cトレンチから北へ約50m離れた、崖の根元部分に設定した。すでに削平を受けており耕作土の下は砂岩質の地山となる。

#### (5) Eトレンチ

標高21mの水田に設定したトレンチで幡宮溜池のすぐ下にあたり、最も湧水が多かった所である。1層は耕作土で2層も旧耕作土にあたる。3層は褐色混土疊層で鉄分質の強い粘土質に大疊が含まれる。遺物は中世の輸入陶磁器等が出土する。4層は一番東側にしか見られない褐色粘質土層で無遺物層、5層は暗褐色粘質土層でねっとりとしている。古墳時代の須恵器や土師器を中心に出土。6層は黒褐色混疊土層。腐植土混りの中に疊を含み、遺物は古墳・弥生の土器が混在する。7層は灰褐色混疊土層で弥生中期と後期の土器が混在する。表土から最下層までは約1.5mに達するまで掘り下げたが地山までは至っていない。



第4図 土層実測図(1)



第5図 土層実測図(2)

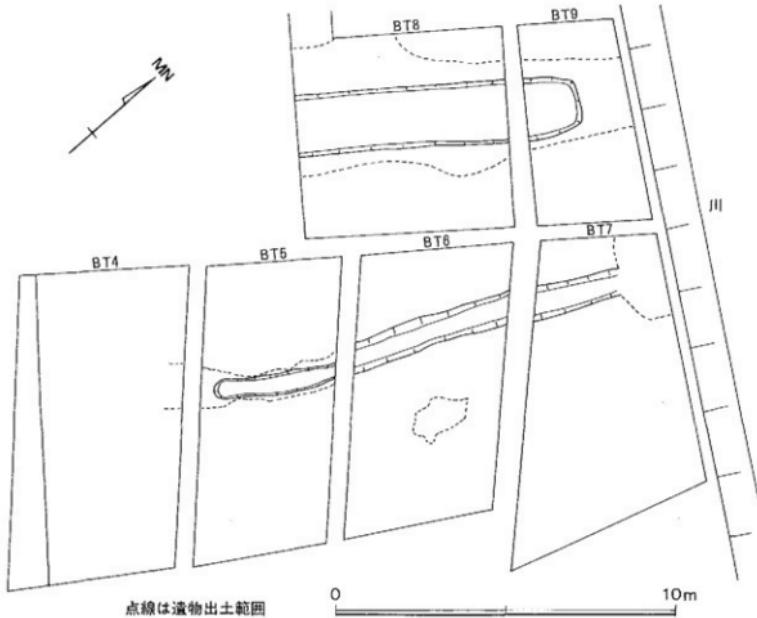
## V. 遺構

### Bトレンチの遺構（第6図）

1区から9区まで区分けたなかで、遺構と思われるものが検出された。2・3区の西と東の隅は土器溜りの様相を呈する落ち込みが認められた。東側には小形仿製鏡と玉類が出土し、その周辺からは壺棺ではないかと思われる弥生時代の大形の土器片も検出されている。西側の土器溜りには弥生後期後半の土器群が壺・甕・鉢・器台などと一緒にあり、弥生中期須恵II式土器も混じる。この中の土質はねっとりとした粘質土で、炭化物も多く含まれる。

3区と4区の間には、丸太材を横に並べて杭で止め、30cmの幅に疊を敷きつめ段差を設けている状況が見られたが、これは旧水田が埋められた時の名残りである。

4区の南壁にレンズ状の灰黒色土崩が入るが、5区では一端途切れ、またはっきりとした溝遺構となる。幅は0.8~1mで上部は川の氾濫により失われているが、下部はU字形を呈し、地山直上に達している。上部には遺物が見られ、下部には有機質の堆積物が認められる。川に近い7区ではうすい堆積となりU字形の形がくずれてくる。8区には幅4m弱の溝があり、ここにも多量の弥生遺物が認められる。南に掘り進めれば、1区の土器溜りにつながる可能性もある。



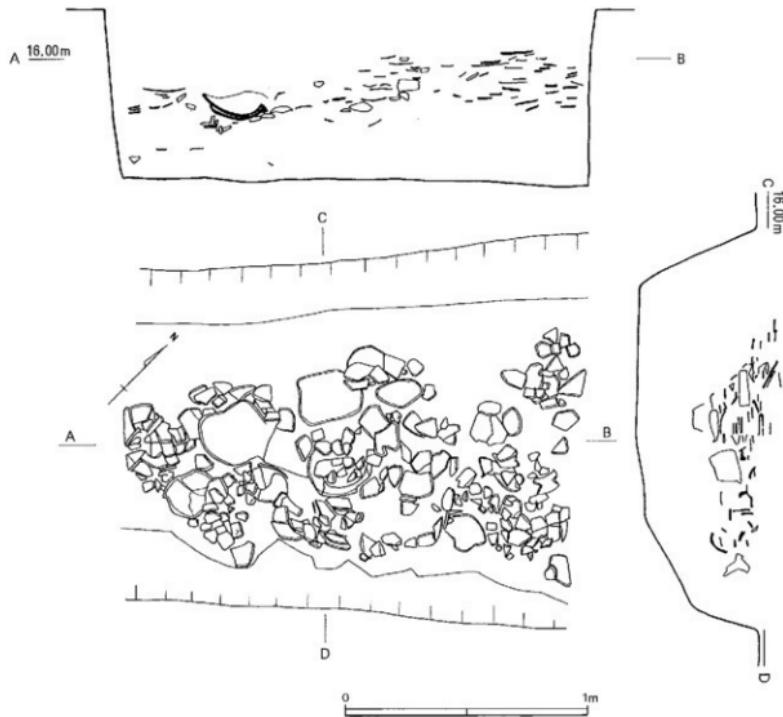
第6図 BT区溝遺構配置図

#### A トレンチ溝遺構

A トレンチ12区から溝遺構を検出した。溝の上場の幅は1.5m、下場は1m前後、深さは約0.5mの規模で底はゆるいU字形をしている。旧表土直下から遺構が見られることから、上面はかなり削平を受けていると思われる。遺物は底から約20cm上の灰色粘土層にかなり密に堆積している。ほとんどが弥生後期の土器である。

遺構は幅2mしか調査することができなかったが、10m南側に設定した調査 sondageからは溝遺構が直線的に伸びていることが判明した。しかし、どの方向に巡るのかは不明である。

この種の遺構は、原の辻遺跡の多重環濠や区画溝、カラカミ遺跡のV字溝などが知られており、本例も時期的に同じことから、環濠が巡っている可能性も考えられる。



第7図 A T区溝遺構実測図

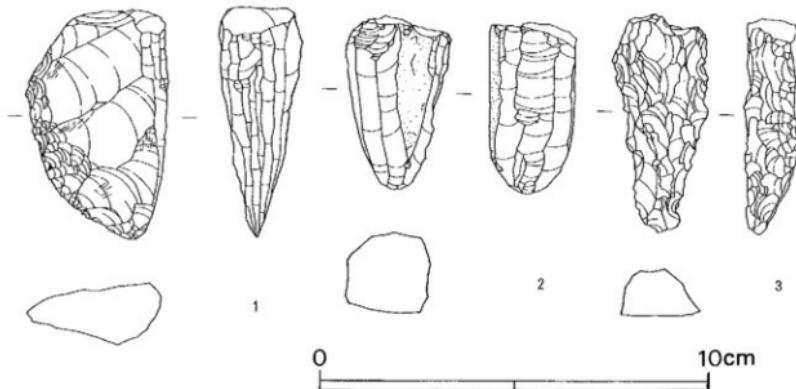
## VII. 遺物

出土遺物は旧石器時代から弥生、古墳、中世に及ぶことがわかった。その中で一番主体をなすものが弥生後期そして中期がこれに次ぐ。古墳時代はBトレンチ、Eトレンチに出土傾向が認められ、Cトレンチでは希薄である。中世の遺物は量的に少ないものの、全トレンチから出土した。

なお遺物の数量は数万点に達する見込みである。以下遺物の概要を述べる。

### (1) 旧石器時代

すべて良質の黒曜石を使用している。細石核2点、細石刃2点、ナイフ形石器2点の合計6点の製品と、フレーク類は数十点出土している。細石核は丁寧な剥離痕を有する船底形1と両端部に自然面を有する円錐形の石核2である。船底形は長さ4.5cmを測り、これまで島内出土の細石核では1番大きいものである。ナイフ形石器3は基部だけで刃部を欠いている。やや粗く成形されたもので、断面は台形状を呈する。



第8図 旧石器時代遺物実測図

### (2) 弥生時代

出土遺物が多量にのぼるので各種の遺物ごとに概略する。層位的に区別はできない出土状況であり詳細には今後の整理が終わった段階で考えたい。

① 土器——中期の土器、須玖II式を中心とする一群、甕、壺、鉢、器台、高坏など、壺には袋状口縁をもつ丹塗研磨土器が目立つ。また口縁が大きく開き頸部にかけて数条の突帯を付した大形壺も見られる。

後期土器から終末の土器、甕、壺、鉢、器台、高坏など、袋状口縁壺が非常に目立ち丹塗土器も多い。口縁に櫛描の波状文をもつ東九州系の土器もわずかに見られる。

② 石 器

石斧——磨製両刃の石斧、方柱状片刃石斧および末製品。これらの素材となる粘板岩も出土。

石鑿——黒曜石製の打製石鑿が数点出土。

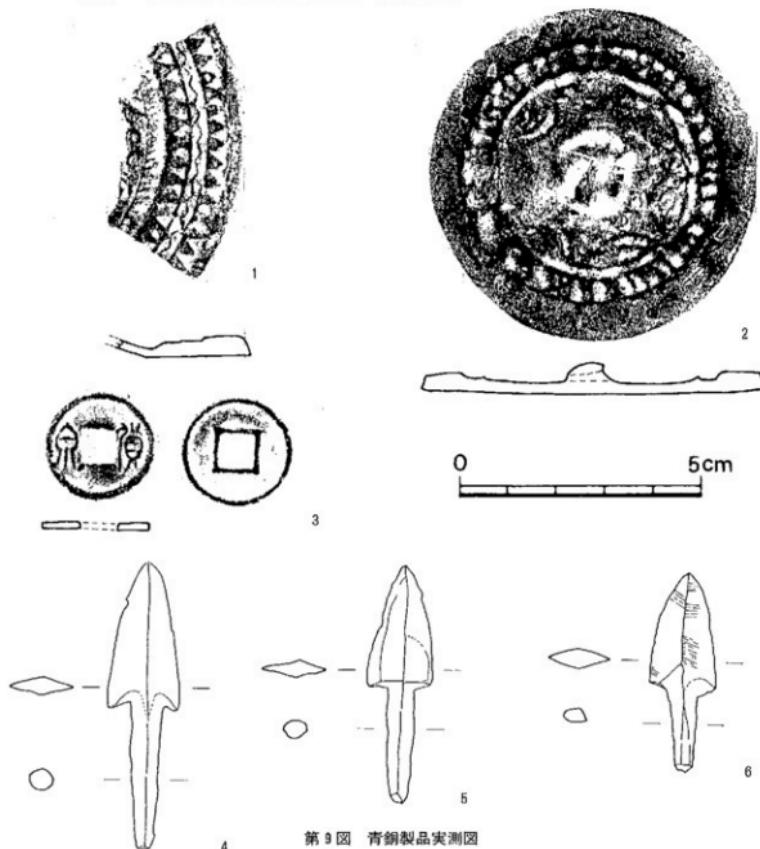
石鍤——粘板岩質の有溝小形の石鍤が数点出土。

磨石——自然蹠をそのまま転用したと思われるもの数十点出土。

凹石——拳大か少し大きめの円蹠の両面に凹みをつけている。100点以上あり非常に際立っている。島内の遺跡はこの石器が特に目立って出土する傾向が見られる。

石皿——砂岩質の大形のものが数点出土。特に大きな石皿は片面が凹んだもので重さ約35kgを測る。

砥石——大型のものから小型のものまで数点出土。



第9図 青銅製品実測図

### ③ 青銅器

鏡——二面出土。方格規矩鏡は火に焼けたと思われる。円周の約6分の1が残るが、材質はしっかりしている。破鏡とは考えられない。復元径約10.7cmを測る。壱岐では原の辻遺跡について2例目。

小形仿製鏡は完形で鋳上りも比較的良い。内区は鋸齒文と二重の連弧文から成る。直径7.0cm、重さ56.9kgを測る。保存状態は極めてよい。壱岐では原の辻遺跡、カラカミ遺跡について3例目。

貨泉——B T 2 のほぼ中央から弥生後期の土器に混じって出土。直径2.2cm、重さ2.1gを測る。中央に一辺7mmの方孔をもつ。方孔のまわりに画は見られないが、裏面には明瞭に画がめぐる。表には右側に「貨」左に「泉」の文字が配されている。壱岐島内では昭和25年の東亜考古学会で1枚、平成5年度の長崎県教育委員会の調査で1枚出土しており、本例で3枚目である。この資料も保存状態は良好である。

銅鏡——B T 2・3 区から3本の出土があった。第19図1は長さ5.9cm、刃先は全体がシャープで基部は抉り入りとなって柄の部分は4cmと長い。全体に鏽が入る。2は全長5.8cmで刃先が2.5cmを測る。全体はシャープで中央に鏽が見られ、刃の両面の片方ずつに稜線が入り内側がわずかに凹んだ状態になっている。一部に銅色の輝きが失われず残っている。3は全長4cm、刃先2.4cmを測る。柄の部分は刃部より短い。鏡を中心に研がれた痕跡をとどめる。いずれも保存状態は非常に良い。原の辻遺跡の50数例目に次ぐ出土例となる。

### ④ 貯蔵穴

青灰色の砂岩質地山を切り込んでいる。直径75~80cmのほぼ円形で、深さ85cm、中央側壁がやや膨らみ袋状を呈している。側壁には幅約5cmの削り痕が全面に残る。造構の直上には弥生後期の土器が堆積するが、中には粘質土が強い青灰色砂礫土とその下に砂利質粘質土があり、さらに底には木の葉類と木片が堆積し湧水が著しい。なお堅果類は確認できていない。

### ⑤ 自然遺物

シカ、イノシシの骨が主体である。水洗した土の中からは魚骨や鳥の骨、貝殻類も出土している。これらの出土物はB Tレンチに限られる。

### ③ 古墳時代

土器器と須恵器が全域にわたって出土する。時期的には6世紀から7世紀が主体である。B T 7区では主頭形の鉄鏃が1点出土している。

### ④ 中世

現在の天の川酒造の付近に寺院跡があったと伝えられている。工場入口横には、五輪塔や宝篋印塔などの石塔類が寄せ集められ、保存されている。遺物は多くはないが、青磁片、白磁片、滑石製石鍋片の出土がある。

## VII. まとめ

車出遺跡の位置する柳田地区は、壱岐西部でまとまりのある平野部が形成され、その中心にあたる鉢形山には、国重文に指定されている滑石製如来座像が出土した経塚と、旧式内社で壱岐一の宮と称される大手長男神社が位置し、歴史的にも重要な地であり、島内で一番長い河足をもつ幅鉢川の源にもあたる。

車出遺跡は、範囲確認調査において狭い面積に限定されているが、鉢形山の頂上付近や国道から西側の丘陵地にも弥生時代の遺物が採集され、前者を鉢形山遺跡、後者を田ノ上遺跡として周知されている。従って、この地区には弥生時代の遺跡が隣接して所在することとなり、大きくは一つの遺跡として取り扱った方がよいとも思われる。このことは、今回川上溝の性格にもかかわることになる。A T - 12区検出の溝はU字溝で、上面に弥生後期の土器が投げ捨てられた状況が見られた。調査区が狭い範囲に限られたため、溝の方向までは確認できなかったので、さらに南側に確認のための小トレンチを設けた結果、こちらにも伸びていることが判明した。しかし、車出遺跡で確認された集落が検出されない限り、田ノ上遺跡の方に巡る公算も大きく、今後の課題である。

一方、Bトレンチでは4区から7区にかけて溝状遺構が見られるが、部分的に限られることから、遺跡内の区域を隔てる性格が強いと思われる。また、この溝のすぐ西側には、約3m幅の溝状遺構が見られ、上部には土器が多量に堆積している。この溝は上方にどのくらい伸びるか不明であるが、祭祀的な土器溜まりと考えている遺構につながる可能性もある。下方はB T 9の中程で途切れている。端部は隅丸方形状になり、上面の黒色土層から掘り込まれている。従って溝は全体に浅く、逆台形状を呈しており、防御的な遺構の可能性は少ないと考えられる。時期的には、土器の出土から弥生中期である。

溝の中には自然木に混じって木製品が出土した。注目されるのは、角材を半截し幅14cm、深さ5cmにくりぬき、さらに一方の側面が12.5cmの幅で切り取られていることである。全体の残存部は90cmにすぎないが、形状から、水を通す木樋とも考えられる。

貯蔵穴は1基が検出されたが、周囲にまだ残存の可能性が高く、集落にも近い地点に構築されたと考えられる。

土師器や須恵器の破片も多くはないが、6～7世紀頃までのものが出土する。このような土器の様相は、新しい古墳時代を除けば原の辻遺跡とほとんど同じである。しかし、まだ整理の段階であるが、朝鮮半島系の土器はほとんど見られず、この点では原の辻遺跡と対照的である。

土器溜まりの状況が3カ所に見られる。B T 2・3区では丹塗磨研土器の壺が完形品で集中し、さらに地形に小穴を掘り、壺や小型供獻土器を埋納している状況が見られ、祭祀的な場も考えられる。またB T 8・9区の溝状遺構は幅広の浅い溝に多量の土器が投げ込まれた状態であり、その性格については不明な点がある。この様な遺構には土器だけではなく、石器や獸骨も見られる。

石器で注目される点は、くぼみ石の量の多さである。この傾向は、島内の弥生遺跡では普遍的のことであるが、本土部の例からすると異常なほどである。また支脚形石器の出土も同様である。多孔質

の安山岩を使用した、壱岐では「くど石」と呼ばれる煮炊きの際の土器を受ける、地域色の強い道具である。

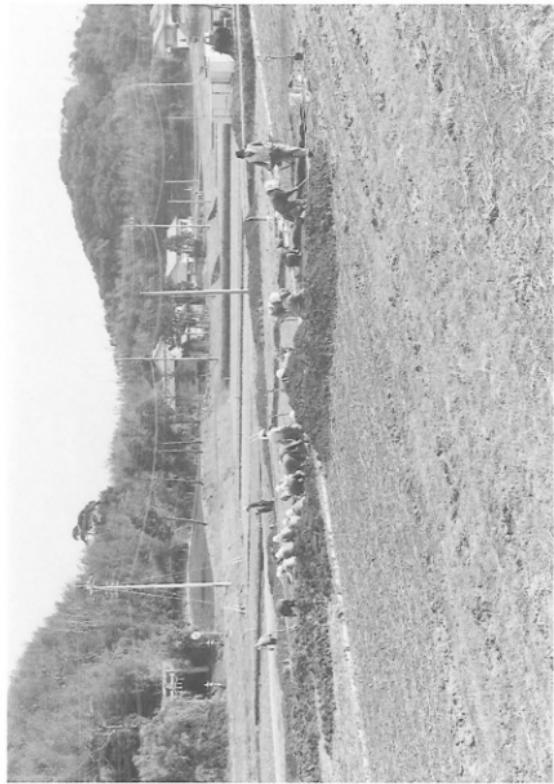
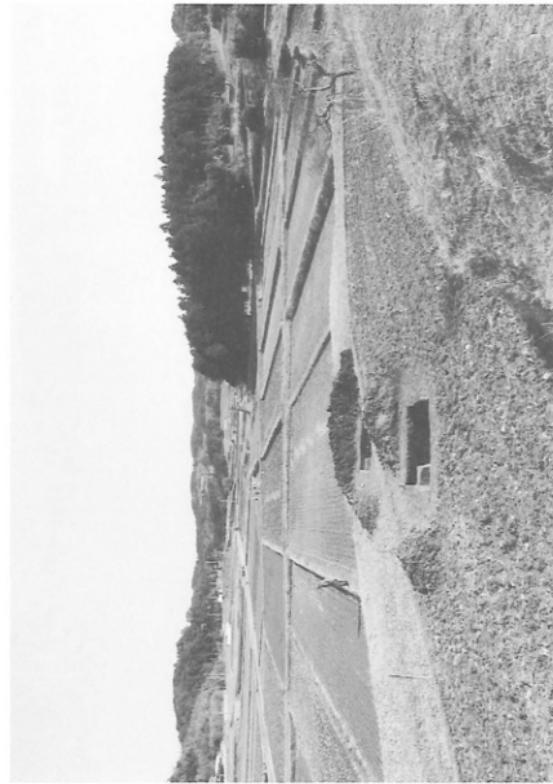
青銅製品の出土は大きな成果である。鏡 2 面、銅鑓 3 本、貨泉 1 枚である。方格規矩鏡は原の辻遺跡の墓地の周辺から出土している。本例は土器溜りの中からの出土である。小形仿製鏡は島内では、原の辻遺跡、カラカミ遺跡、若宮遺跡石棺出土に次ぐものである。今回は斎棺副葬の可能性が強いが、いずれにしろ有力者層の存在が考えられる。

田ノ上遺跡や鉢形山遺跡を車出遺跡の範囲として捉えると、原の辻遺跡の規模には及ばないにしてもカラカミ遺跡と同様の規模を有し、有力な集団の存在は、当時の一支国の一翼を担っていたのではないかと考えられる。

海外との交流の点から見ると、鏡や貨泉などは流入しているが、土器については、今のところ半島系のものは見あたらない。この点については今後に期待したい。

最後に、発掘調査は年度末まで続き、報告書も調査と併行しながらの作成となった。今後整理の段階で新しい知見が出てくると思われる。詳細な考察については、また機会を改めたいと考えている。

図 版



造跡遠景およびCトレーナー近景

図版 2



CT1区



CT1区およびET区土層

ET区



BT 4 区



BT 4 区および BT 6 区土層

BT 6 区

図版 4



A T 12区

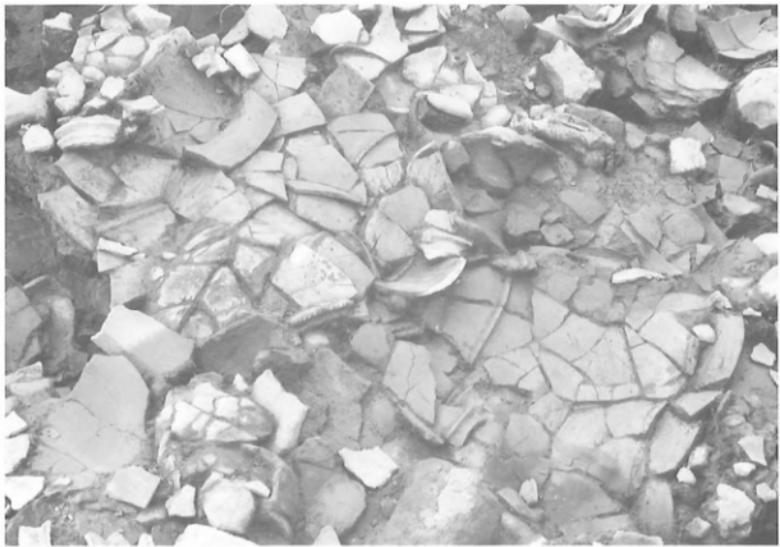


A T 12区遺構およびB T 2・3区遺構出土状況

B T 2・3区



BT 2・3 区遺物出土状況



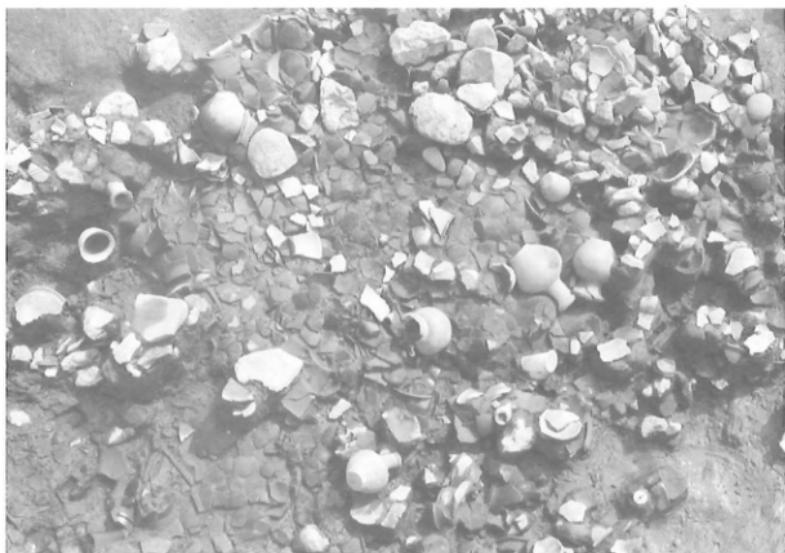
B T 2 区遺物出土状況



B T 2 区遗物出土状况

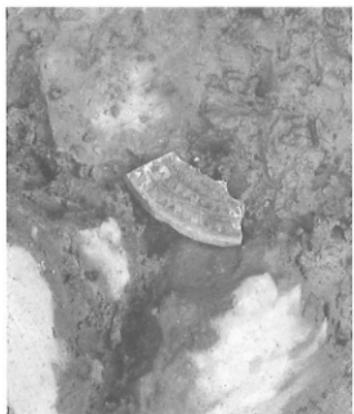


B T 2 区砥石および砥石をはずした土器出土状況



BT 2 区土器溜り出土状況

圖版10



方格規矩鏡出土狀況



小形仿製鏡

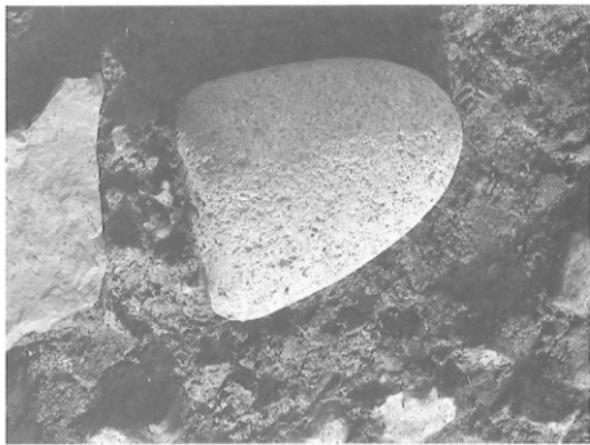


銅鏃出土狀況



銅鏃  
出土  
狀況

青銅製品出土狀況



B T 2 区変形土器および石器出土状況

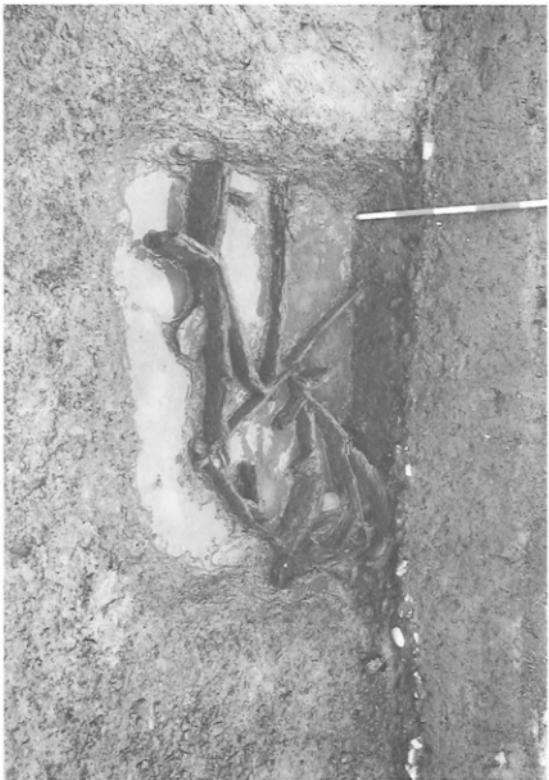


溝状遺構上面遺物出土状況

图版13

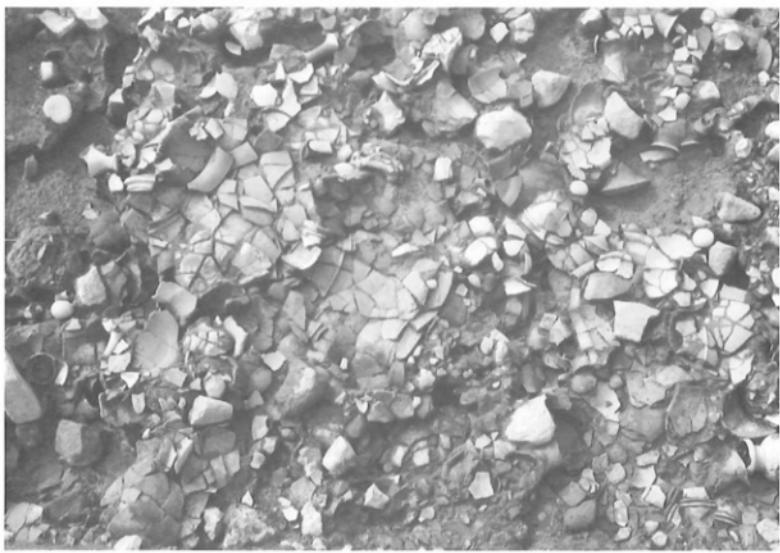


B T 6 区



图版13  
B T 9 区  
沟状遗物下面遗物出土状况

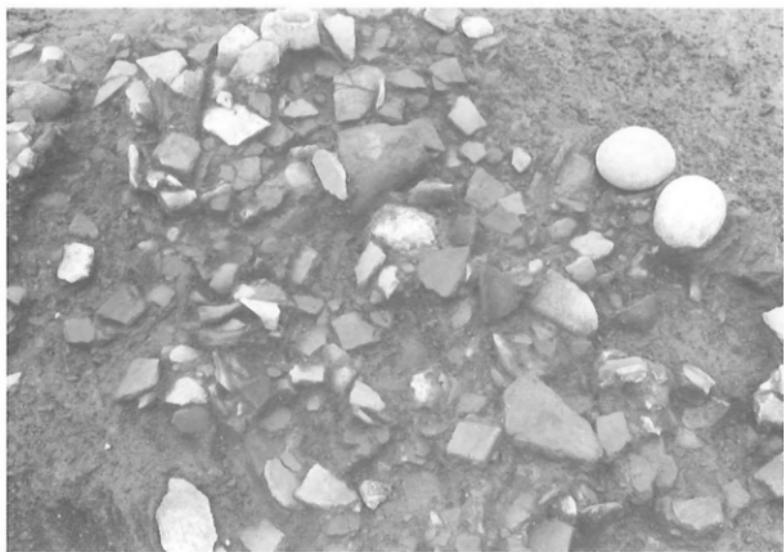
图版14



B T 8 区溝状造構上面遺物出土狀況



A T 4 区遺物出土状況



E T 区遗物出土状况



B T 2 区貯藏穴出土状況および鹿角出土状況



調査風景

## 報告書抄録

ふりがな	くるまでいせき						
書名	車出遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名	原の辻遺跡調査事務所調査報告書						
シリーズ番号	第8集						
編著者名	安楽勉						
編集機関	長崎県教育委員会						
所在地	〒811-5322 長崎県壱岐郡芦辺町深江鶴亀触1902番地1 TEL(09204)5-4080						
発行年月日	西暦1998年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 度数	東經 度数	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
車出遺跡	長崎県壱岐郡 郷ノ浦町 田中触	42421	174	33 129 45 42 34 14	19980119   18980331	827m <sup>2</sup>	農業関連 圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
車出遺跡	遺物包含地	旧石器 弥生 古墳 中世	貯蔵穴 溝	弥生土器・石器 鏡 銅鑓 貨泉 獸骨	祭祀遺跡ではないか と思われる土器溜り から丹塗り土器など 多数出土		

原の辻遺跡調査事務所調査報告書第8集

車出遺跡

1998. 3. 31

発行 長崎県教育委員会  
長崎市江戸町2番13号

印刷 株式会社 昭和堂印刷